

令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 10月30日(月)

会場: 八次コミュニティセンター

参加者数: 28人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>5年前に自宅前が水害にあった。熊野橋手前(畠敷側)の土地で5年前に浸からなかった場所があるので、避難場所に整備されたらどうか。大雨が降ると避難所まで行くことが大変である。また、十日市側のテトラポットの木を伐採してほしい。</p>	<p>・避難所については、住民自治組織と市担当課で協議をしながら決定をしている。三次市民ホールきりりも避難所になっている。しかし、平成30年の豪雨災害で浸水し避難できなかった方もおられた。このようなことから、雨水貯留施設を建設し、2か所目も整備している。畠敷ポンプ場の能力も、これまでの3基から5基に増やし、排水能力が約1.5倍になった。また、燃料タンクも増設し稼働時間を確保できるようにした。畠敷・願万地地区については、内水被害が軽減する対策をしている。</p> <p>・堆積土砂の撤去や樹木の伐採については計画的に実施し、河川の水がたくさん流れるような状態にしている。事業者数や予算も限られているため、計画的に実施をするしかない。国についても、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策で、防災、減災につながる取組に優先的に予算をつけており、今まで以上のスピード感で実施できる状況となっている。災害に強いまちをめざしていくので、安心していただきたい。</p>	
<p>平成30年の豪雨災害で車が浸かった。車で避難するのに適した土地があるので、車中泊ができるようにしてほしい。</p>	<p>本市では、みよし運動公園などの広域避難所を準備している。どのくらいの雨が降るのか、線状降水帯が発生するなど、事前情報に基づいて、より安全なところに早めの避難をしてもらいたい。市としても啓発を行っていく。</p>	
<p>近年、常会からの退会者が増えており、常会費も減少している。街灯費等で、年間約2万円かかっており、繰越金も徐々に少なくなっている。市として、常会の会員についてどのように考えておられるのか。</p>	<p>・他の地区でも世帯数が減少しており、高齢化もある。また、常会退会時に引き止めることを強制できないので難しいところもある。街灯費の件についても、他の地区でも同様に問題となっている。これからの取組であるが、街灯費など、目的により賛同された方から会費を集めるなども考えておられる。地域型コミュニティから、目的型のコミュニティへの考え方も必要となってくる。</p> <p>・ここ3年はコロナ禍で、人々のつながりや近所とのコミュニケーションが希薄化している。特に市街地で顕著となっている。今年から、地域のイベントが復活しており、地域のつながりを再構築していく必要がある。いざという時に、声を掛け合えるなど、常会に加入するメリットをPRできるように、地道に話をしていく必要がある。要望があれば担当課が説明に行く。</p>	
<p>・高齢者が外出しにくくなった。交通をどのように確保するのか。市街地循環バス「くるるん」だけでは不十分である。これからは、ドアツードアになるべきである。先日もニュースでタクシー会社、行政、利用者が一緒になりドアツードアの仕組みをしているとあった。本市もビジョンを持ちドアツードアをめざしてほしい。</p> <p>・敬老会での祝辞で、会話をすることが重要であると言われた。認知症カフェに行ってもらうために、自家用車で参加者の送迎をしているが、いつまで続けられるかわからない。また、八次コミュニティセンターに来てもらうためには、公共交通機関もなく、長い上り坂もあり不便である。コミュニティセンターへの交通手段を、どうすればいいのか、市の考えを聞かせていただきたい。</p>	<p>高齢者の皆さんが元気に日常生活を送っていただくため、本市では健康寿命の延伸などを基本目標として、フレイル予防や口腔ケアの実施など健康づくりの取組を推進している。高齢者の方は免許を返納すると移動が制限される。公共交通を利用することも重要であるが、例えば、デイスサービスなどの施設の送迎車を一つの移動手段として活用することや、ライドシェアなどを高齢者の日常生活の移動に活用することができれば、移動手段の確保につながる。しかしながら、ライドシェアは法令によって禁止されている。今後、地域に応じた移動手段の確立が求められると思うので、ライドシェアなどの規制緩和の動向を注視し、市担当課を窓口皆さんと情報交換をしながら、取組を進めていきたい。</p>	<p>【ドアツードア】 ドアからドアへと直接にアクセスできること。 【ライドシェア】 自動車を相乗りすること。</p>
<p>・市立三次中央病院の建替えについて、全室個室とされている。個室になると部屋代の料金はどうなるのか。年金生活者はどう支払えばいいのか。</p> <p>・兵庫県での病院では、特別室は別として、全室個室となれば料金はかからない。検討をお願いしたい。</p>	<p>・他の病院を視察するなど、検討している段階である。個室料金を一律にするのではなく、部屋に応じて料金の差を出す予定である。個室化は、病床稼働率を上げることも目的であり、現在は多床室が多いが、多床室では部屋を男女別にしなければいけない。そのため、稼働率も低迷するといった課題もある。完全個室化を進めることで、稼働率を上げ、収益にもつながるようなシミュレーションをしている。有料個室の設置数には上限があり、大半が無料の個室となる。支払いについては、しっかりと考慮し、検討していく。</p> <p>・全国の同じ病床規模の病院で、完全個室で運営しているところは調査している。個室になれば面積も増えるので、最小の労働力で最大の医療サービスができるか、現場の職員の意見も聞きながら、検討しているところである。市立三次中央病院建替基本計画策定後、いろいろな機会を通じて情報を発信する。</p>	

令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 10月30日(月)

会場: 八次コミュニティセンター

参加者数: 28人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>消防本部・三次消防署の移転について、昭和47年の水害で消防署が2.5メートル、三江線のガードが京蘭寺で3.4メートル浸かっている。しかし、500年か1,000年にあるかないかの災害のために消防署を高台に移転することは危険である。移転されるなら、十日市に出張所をつくってほしい。時間も危険性も軽減できる。今後のことを考えれば、鉄筋コンクリートではなく、5メートル嵩上げをして木造にしてほしい。SDGsにもなり、県北の経済効果にもつながる。消防本部・三次消防署移転に係る説明会も、8月にされただけである。決まる前に説明会をしてほしい。パブリック・コメントもあるが、利用する人はほとんど皆無である。もっと情報開示をして、市民の声を聞いてほしい。</p>	<p>消防本部・三次消防署の移転については、市民の皆さんや市議会から意見をいただいた。最近の雨の降り方は、いつ災害が起こってもおかしくない状況である。岡山県の真備町では、浸水想定区域どおりに浸水し、消防署も機能しなくなった。また、熊本県人吉市では、消防庁舎を高台に移転させようというプロジェクトを実施していると聞いている。本市は、昭和47年水害から50年近く経過しており老朽化している。中の機能も更新が必要であるタイミングで消防庁舎を高台に移転することを決定した。県立総合技術研究所林業技術センター三次高平施設は有効な土地である。インターチェンジに近い土地で高台である。総合的に踏まえて、地域の防災力を向上させるため消防庁舎を移転するという事業を決定し、市議会の中でも、いろいろなお意見をいただいた。最終的に合意をいただき、財源があるうちに、計画的に整備を進めている。</p>	
<p>・芸備線について、スピードアップが一番であるが現状では難しいと思う。廃線などで使用されなくなった車両に入れ替えて、珍しいデザインにしてはどうか。ラッピング列車も走っているが内装を工夫し、もっと乗りたいと思う内装にしたらいいのではないかな。椅子も固く座席が向かい合わせであるので、座席を進行方向に変えられるような車両にしてはどうか。また、ストープ列車もいいと思う。</p> <p>・旧三江線や旧尾関山駅周辺を活用したい。もののけミュージアムから旧尾関山駅の道路に妖怪のモニュメントを置いたり、尾関山のトンネルに入るとミニシアターが見れるようにしてはどうか。</p> <p>・三次駅前を三次に来たという記念になる場所にしてほしい。駅の屋上に古代居住や鶴などを置く。今、もののけミュージアムにある機関車を三次駅の近くに置くことはどうだろうか。費用についてはクラウドファンディングを活用したらいいのではないかな。</p>	<p>・芸備線の活用については模索している。旧尾関山駅周辺の活用については、みよしSL保存倶楽部の方が、レールバイクを購入するためのクラウドファンディングを実施されている。みよしSL保存倶楽部の方と連携した取組を行っていききたい。もののけミュージアムにあるSLは、みよしSL保存倶楽部の皆さんのご協力できれいな状態を保っている。SLを移動することについては、現在は費用対効果の面から考えていない。</p> <p>・もののけミュージアムとの連携については、たくさんの方が尾関山を利用されることで、新たな三次町の動線ができる。「もちのえき」に、たくさんの方が来られるようになり「もののけミュージアム」と「石畳」が線で結ばれた。今後、地元、民間事業者、団体と連携し、尾関山から三次町の本通りまで周遊できるよう取り組んでいききたい。</p>	<p>【レールバイク】 鉄道の線路の上を自転車のように漕いで走る乗り物。</p>
<p>長士手でボートをできないか。駐車場などの関係で課題も多いが、考えてほしい。</p>	<p>国土交通省と検討した結果、長士手でボートについては、難しいという結論に至った。現在、三次観光推進機構(みよしDMO)が、灰塚ダムでSUP(サップ)を楽しめないか検討されている。水を活用したアクティビティは新しい資源に結びつく可能性がある。三次の水や自然などいろいろなものに関係していただき、関係人口が増やせるように、引き続き取り組んでいく。</p>	
<p>三次ワインを「もののけ」や「鶴」の形の容器にして販売してはどうか。工夫してもらいたい。ふるさとが誇りになるように検討してほしい。</p>	<p>ワインの入れ物については、ご意見を広島三次ワイナリーに伝えさせていただく。</p>	
<p>若者からすれば、元気な三次をつくるためには、祭りやもののけミュージアムよりも、コロナ禍前より新しいもの。例えば、若者が遊べるアミューズメントパークなどを作ってほしい。</p>	<p>・コロナ禍の3年間で、デジタル化が加速した。例えば、市役所に行かなくても、住民票や印鑑証明の申請ができるなど、市役所変革も進んだ。市民の皆さんが便利で、豊かな生活を送るための手段をどのように構築するかを、引き続き、研究していきたい。</p> <p>・アミューズメントパークについては、民間事業者が運営されている場合が多く、本市の人口や周辺エリアの商圈規模では、採算がとれず民間事業者が参入できないといった状況がある。仮にアミューズメントパークを行政がしようとすると、赤字の部分は税金で補填するようになるなどといったことも考えなければならぬ。アミューズメントパークを作ることも大切なことではあるが、もっと力を入れていきたいのは、本市の自然や資源を生かして、多くの方に来てもらう取組を広げることであり、やはり三次の特長になりうるものをしっかり磨いた取組を今後していきたい。</p>	